

落花生作況調査及び 需給懇談会の開催

(一財) 全国落花生協会

落花生の作況調査と需給懇談会を今年は9月10日に茨城県下で地元行政機関、関係団体等の協力を得て開催しました。国、主産県行政・試験研究の担当者、生産者、産地及び消費地の加工団体関係者、輸入商社関係者等約80名が参加されました。

①作況調査の概要

作況調査では、1カ所目は、土浦市菅谷町のほ場で、その概要は、品種はナカテユタカで5月27日は種、ここ数年の輪作体系は、平成24年から26年までカンショ栽培で27年落花生となっている。10a当たりの株数は5,300株で、6月下旬開花、7月20日マルチ除去、現在まで病害虫の発生が少ないので防除は行っていません。おおむね順調な生育ということでした。

このほ場において、農林水産省の農業機械等緊急開発事業（緊プロ）のもと、農研機構生物系特定産業技術研究支援センターと松山（株）の共同研究で、今年から市販されている落花生収穫機を実演していただく予定でしたが、降雨のため中止となり展示機械の説明をしていただきました。

2カ所目のほ場は、つくば市荃崎の農事

組合法人つくば農産のほ場で、その概要は、品種はナカテユタカ、5月3～5日は種、輪作体系は平成24年・25年休耕、26年スイカ・ニンジン・休耕のほ場で、27年落花生を栽培している。10a当たり株数は6,200株、病害虫防除はしていない。6月17日開花期で、生育は順調とのことでした。

②需給懇談会の概要

需給懇談会は、ホテルグランド東雲において開催しました。農水省から「落花生をめぐる事情」などの説明がありました。

協会からは、農林水産統計や輸入統計により、最近の落花生動向について紹介し、続いて、千葉県、茨城県における平成27年産の生育状況、産地動向及び事業の取組み状況等の報告がありました。

国内需要の約9割を占める外国産落花生の状況について、落花生輸入商社協議会から中国、米国などの今年の生育状況、大粒種落花生及び小粒種落花生の需給見込み等の報告がありました。

また、(一社)日本ピーナッツ協会からは、日本の落花生市場の現況と課題、大粒種落花生の需要見込みの説明がありました。